

■児童・生徒の学力の状況

○全国学力学習状況調査において国語、数学、英語の3教科の正答率が全国・東京都を上回っている。
 ○授業に対する意欲は高く、全国学力学習状況調査の「学びの自己調整」と「主体的・対話的で深い学び」の項目が全国平均を上回るなど、学校生活を楽しみ、他者との協力を重視し、自ら学びを深めようとする意欲が高いことがわかる。
 ○一方で「数学に関する意識」と「読書」や学習以外の生活面でのデジタル利用に課題があることがわかった。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

○各教科における興味や自信を向上させるために、ICTを活用した思考の可視化や正解を出すだけでなく「学ぶ楽しさや有用性」を実感させる指導。
 ○他者の多様な意見を尊重しながら、正解のない問いに対しても粘り強く試行錯誤し続ける対話的な学習の推進。
 ○読書習慣の定着と多角的な情報活用能力の育成の推進。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

○読み解く力を基盤とした板橋区授業スタンダードをベースに指導方法を工夫し、学習の基礎的・基本的な内容が確実に身に付くようにする。
 ○板橋区授業スタンダードS・問題解決型・探究型の授業、協働学習を導入して自ら学ぶ意欲を育むとともに、思考力・判断力・表現力、赤二型学力（言語能力、情報活用能力、創造力、問題解決能力、実践力、他者との協働等）を育む。
 ○教科書等を正確に読む活動、文章を書いたり伝えたりする活動、input-think-outputを意識した学習を重視し、思考を整理する方法を身に付けさせるとともに、読み解く力の育成を図る。
 ○将来にわたり必要とされる力を赤二型学力とし、身に付けるべき力を表すピクトグラムや評価規準等を記載した赤二中スクールライフ等の活用を図りながら全教育活動を通じて身に付けさせていく。

■確かな学力の育成に向けての具体的な方策

視点1 板橋区授業スタンダードの徹底、及び 板橋区授業スタンダードSの取組	視点2 ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現	視点3 総合的な学習の時間との連携
板橋区授業スタンダードS・問題解決型・探究型の授業、協働学習を導入して自ら学ぶ意欲を育むとともに、思考力・判断力・表現力、赤二型学力（言語能力、情報活用能力、創造力、問題解決能力、実践力、他者との協働等）を育む。	各教科での活用を通じて情報活用能力や情報モラルの育成を図る。予習や復習など家庭での一人一台端末活用を想定した授業計画の立案、ドリルアプリを活用した自主的な家庭学習習慣の習得・確立に努める。	各教科等との関連を図りながら、自ら課題を見付け、情報を収集し、分析して、まとめ、発表することを発展的に繰り返して探究的な活動の充実を図り、主体的、創造的、協働的に取り組む態度を育てる。

■MIRAI SCHOOL いたばし-教育ビジョン2035- -アクションプラン2028-の実現に向けた具体的な取組

保幼小接続・小中一貫教育の推進	豊かな心と健やかな体の育成	多様な教育的ニーズへの対応
○連携校と単元配列表を交換し、学年横断的な年間指導計画を作成する。 ○年間3回の研修会において各校の授業を観察し、授業改善に向けた意見交換を行う。 ○長期休業中には、小学校の補充教室で中学生が補助を行う「リトルティチャー」や2学期には、小学6年生を対象に中学校の授業体験を行う「ビクティチャー」を実施し、交流を図っている。	○道徳教育推進教師を中心に3学年間を見通した全体計画・指導計画を基に、全教師が協力して全教育活動において道徳教育を進める。 ○各教科、体験活動等の横断的な学習を通じて、違いを認め合い、偏見や差別なく他者と協働する姿勢を育てるとともに、多様な文化や価値観を持つ世界の人々を理解し、尊重し、共に生きるための能力や態度を育む。 ○年間3回のいじめに関するアンケートやWEBQ Uの結果、アセスメント等を通じて生徒の実態を把握し、速やかな対応を図るとともに、個の状況に応じた支援を行う。	○「特別支援教育委員会」を毎週開き、スクールカウンセラー等の専門家の指導・助言のもと、発達障がい等の対応や指導の在り方について検討し、個に応じた支援の充実を図る。 ○特別支援教室の運営においては、拠点校との連携を十分に図るとともに、社会的自立に向けて、特別支援学級と在籍学級の連携を密にし、当該生徒の教育課程に基づいた指導の充実を図る。